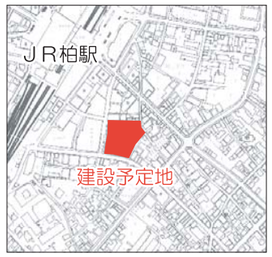
（仮称）柏市新中央図書館
内 装 基 本 設 計 概 要

■柏市新中央図書館とは

新中央図書館は，柏駅東ロＤ街区第一地区に建設される再開発ビルの６・７・８階への整備を予定しています。

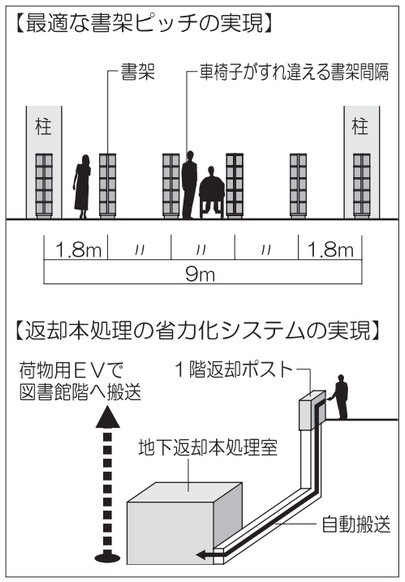
中心市街地に立地する図書館であり，柏の新しい顔としてまちの活性化に資する拠点施設の役割を担うことが期待されます。「図書」という資料にとどまらない多種多様な「情報」にふれやすく活用しやすい環境を作り出し，市民一人ひとりが自己を高め，自立的な判断を行っていくことを支えていきます。



■内装基本設計の業務概要

再開発ビルとの調整や関係団体との協議を交えながら，新中央図書館の骨格となる基本プランの検討や必要機能の整理を行いました。

「新中央図書館」整備基本計画に基づき，性格の異なる３フロアを組み合わせて利用者の多様なニーズに応えるとともに，柏市ならではの企画・特集コーナーや市民の交流・活動を支えるコーナーを軸にフロアをつなぎ，利用しやすく魅力的な施設づくりを目指しています。



■計画概要

構造	鉄骨造
面積	約６，０００㎡
開架蔵書数	約２０万冊
閉架収蔵能力	約４０万冊
閲覧席数	約４００席
開館	平成２４年度（予定）

※資料の内容は基本設計時点（平成２１年３月）での進捗であり，今後の検討により変更となる可能性があります。

静（せい）のフロア

～じっくりと時間を過ごすことのできる快適な環境～

エントランスフロアから離れた最上階（８階）は，静かに落ち着いて読書や調べ物のできる「静」のフロアとして整備します。

ソファー席やカウンター席，閲覧席，研究席など，様々な種類の閲覧スペースを分散配置することで，目的や気分に応じてお気に入りの場所を見つけ集中した時間を過ごすことのできる，市民の書斎のような場を提供します。

見通しの良い一般開架

賑（にぎわい）のフロア

～図書を『読む・調べる』から情報を『使う・展開する』図書館へ～

中層階（７階）は，静粛性の要求される従来の「硬い」印象の図書館フロアではなく，ある程度の自然な音や動きは気にせずに，パソコンや映像・音響機器等の利用やグループ学習などの会話を通して情報を積極的に活用することのできる「賑」のフロアとして整備します。

未来へ向けた駅前の新しい図書館にふさわしい，あらゆる市民が敷居を感じずに自由に活用し楽しむことのできる映像・情報センターとしての役割を果たす場を提供します。

動（どう）のフロア

～市民の創意工夫により発展する交流・活動拠点～

新中央図書館のエントランスフロア（入口となる階）であり，施設の顔としてまちに開かれる最下階（６階）は，市民交流・活動拠点としての性格をもつ「動」のフロアとして整備します。

誰もが気軽に利用できるゆとりある閲覧席や新聞雑誌コーナー・児童コーナーに加えて，市民交流コーナー等の，市民の主体性や創造性により活用の幅が広がり，経年的に成長してゆく可能性を秘めた空間づくりをすることで，新たな交流や活動を育み柏のまちへ還元します。

立体的な空間構成

平成２１年３月３１日　柏市教育委員会